

令和 4 年 1 月 6 日
横浜都市発展記念館
(公財)横浜市ふるさと歴史財団

鉄道開業 150 周年記念 横浜都市発展記念館 企画展

「激震、鉄道を襲う！—関東大震災と横浜の交通網—」開催のご案内



2023年

関東大震災から
100年の節目に向け
企画展を開催

被災した 120 形市電車両
(本牧箕輪下電車停留所付近)
1923(大正 12)年 9 月
横浜都市発展記念館蔵

今から 150 年前、新橋と横浜の間で開業した鉄道は、その後、全国に線路を延ばしていきました。
大正時代は、2 代目横浜駅の開業〔1915 年（大正 4）〕や、東京・桜木町駅（初代横浜駅）間の電化、電気鉄道の市営化〔1921 年（大正 10）〕と新規路線の整備計画の策定など、横浜市内の交通網が大きく発展した時期でした。そうした中、未曾有の悲劇に見舞われます。1923 年（大正 12）9 月 1 日に発生した関東大震災です。

2023 年には関東大震災から 100 年の節目を迎えます。本展では、震災からの復旧工事に携わった**鉄道技師の遺した写真アルバムを中心に、物流の大動脈となりつつあった鉄道や横浜の交通網の被災から復旧、復興に至る様子を多彩な資料で紹介**いたします。本年は鉄道開業 150 年の記念の年ですが、**近い将来の発生が指摘されている大規模地震への備えが叫ばれる中、鉄道と災害の歴史を見直すきっかけになれば幸いです。**

展示概要

- 【会 期】2022（令和 4）年 1 月 15 日（土）～ 3 月 27 日（日）
- 【会 場】横浜都市発展記念館 3F 企画展示室
- 【開館時間】9:30～17:00（券売は 16:30 まで）
- 【観 覧 料】一般 500 円、小中学生および横浜市内在住 65 歳以上 250 円
- 【休 館 日】毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は翌日）
- 【展示点数】約 200 点
- 【関連企画】展示解説 1/29 日（土）、30 日（日）、2/13（日）、3/12（土）、13（日）
各日とも 13:30～30 分程度 先着 15 名
パネル展示「鉄道橋の関東大震災」（当館 1F ギャラリーにて開催）



ここが見どころ！

① 鉄道技師が遺した写真帳

鉄道橋を専門とする鉄道技師だった木村義麿（1885-1946）は4冊の写真帳を遺しました。関東大震災後、鉄道省の技術職員として東海道本線の馬入川橋梁、熱海線の酒匂川橋梁や白糸川橋梁の工事に従事し、その過程の写真約500枚を写真帳にまとめました。木村の遺した写真からは、当時すでに物流の大動脈となっていた東海道本線の復旧工事の過程だけでなく、当時の高い土木技術が窺えます。



【上】関東大震災鉄道復旧工事写真帳

【右】鉄道技師・木村義麿 肖像 昭和3年頃

上・右とも：河邊啓太郎氏蔵

横浜開港資料館保管



② 市民の足の崩壊と復興

写真帳『大震災電気鉄道被害情况』（横浜市電気局）も貴重な資料です。当時、電気局の置かれていた滝頭周辺の被災状況から車両や施設の被害、復旧工事、バラック電車の運行などが収められています。市民の足として身近な交通機関として定着していた電気鉄道（横浜市電）の、震災からの復興の様子をご紹介します。



オソ10形貨車と復旧工事に従事した人びと
河邊啓太郎氏蔵・横浜開港資料館保管

③ 多彩な資料から追う鉄道と関東大震災

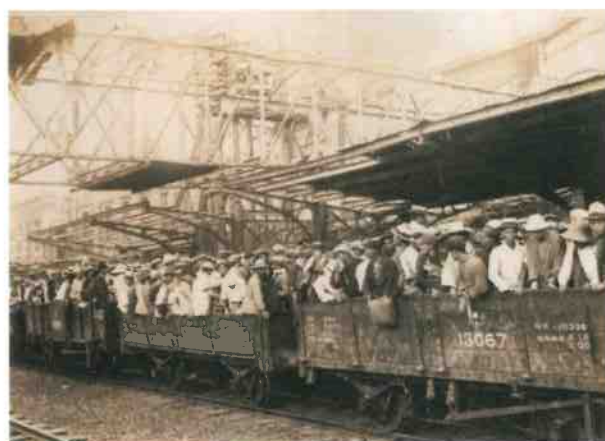
近年注目が高まっている市民が遺した日記や、震災遺構からの出土資料なども展示します。鉄道を用いて災害から避難する人々の様子をはじめ、関東大震災がもたらした鉄道や市民生活への影響を捉え直します。



八木彩霞の日記

八木洋美氏蔵

横浜開港資料館保管



横浜から地方へ鉄道で避難する人びと

1923（大正12）年9月 横浜都市発展記念館蔵

- 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会期・開館時間等を変更する場合があります。
- 展示をご覧になる際には、オンラインによる事前予約（日時指定）をご利用いただくと、ご入館がスムーズです！詳細はホームページをご覧ください。

お問合せ先

横浜都市発展記念館 TEL 045-663-2424

副館長：青木祐介 展示担当：吉田律人 広報担当：神谷量子



2022 I.15(土).....3.27(日)

開館時間 9:30～17:00(券売は16:30まで)

休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)

観覧料 一般500円／小・中学生および横浜市内在住の65歳以上の方250円

※この料金で当館常設展および横浜ユーラシア文化館もご覧いただけます。

※毎週土曜日、小・中学生と高校生は無料です。

横浜都市発展記念館

Museum of Yokohama Urban History

観覧券はオンラインで購入できます。展示をご覧になる際には、オンラインによる事前予約(日時指定)をご利用いただくと、ご入館がスムーズです。 購入はこちらから▶



〈主催〉公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団(横浜都市発展記念館) 〈共催〉横浜市教育局委員会/横浜開港資料館 〈後援〉朝日新聞横浜総局/神奈川新聞社/産経新聞横浜総局/東京新聞横浜支局/毎日新聞横浜支局/読売新聞横浜支局/NHK横浜放送局/tvK/株式会社 交通新聞社

— 関東大震災と横浜の交通網 —

激震 鉄道を襲った?

今から150年前、最初に新橋と横浜の間で開業した日本の鉄道は、その後、日本全国に線路を延ばしていきました。移動時間の短縮や貨物の大量輸送は人びとの生活スタイルを大きく変えていきます。また、都市と都市を結ぶ遠距離輸送だけでなく、都市内に整備されていった電気鉄道(路面電車)は、市民の足として定着していきました。大正時代の横浜では、1915(大正4)年8月に2代目の横浜駅が高島町に開業したほか、東京駅と桜木町駅(初代横浜駅)の間を電車(京浜線)が結ぶようになります。一方、横浜市内の電気鉄道は1921(大正10)年4月に市営化され、新規路線の整備を計画していきました。このように横浜の交通網が広がりを見せていくなか、悲劇が起こります。1923(大正12)年9月1日の関東大震災です。

神奈川県を震源とするマグニチュード7.9の地震は、南関東一帯に大きな被害を与えました。特に横浜市中心部は激しい揺れに襲われ、交通網も壊滅的な打撃を受けます。本展示では、当時の写真を中心に、横浜の交通網、鉄道の被災から復旧、復興に至る過程を追いかけていきます。

展示構成

プロローグ 線路は続くよ、どこまでも

第1章 崩壊する市民の足

1. 横浜市電の被災
2. 電力施設の被害
3. 軌道・橋梁・トンネル等の被害

第2章 大火災と鉄道

1. 桜木町駅の焼失
2. 貨物線の被害

第3章 寸断された大動脈

1. 焼失した横浜駅
2. 東海道本線の被害
3. 根府川駅の悲劇

第4章 避難路を確保せよ！

1. 京浜間の鉄道復旧
2. 復活する市民の足
3. 国有鉄道の復旧工事

エピローグ 復興事業と交通網の拡大



4



5

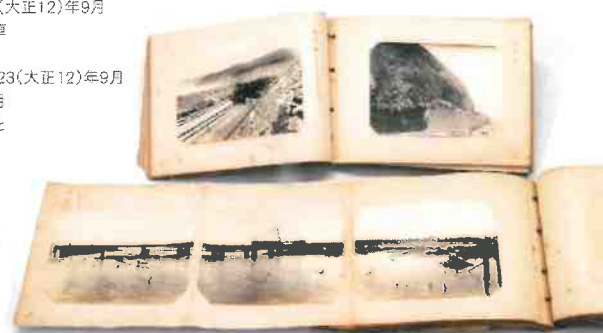


6

(図版キャプション)

- 表面 ①…焼失した2代目横浜駅 1923(大正12)年9月
 ②…本牧貨物下電車停留所付近 1923(大正12)年9月
 ③…鶴宮一小田原間 脱線した蒸気機関車 1923(大正12)年9月
 裏面 ④…横浜から地方へ避難する人びと 1923(大正12)年9月
 ⑤…バラック電車 1923(大正12)年10月
 ⑥…オソ10形と復旧工事に従事した人びと 1924(大正13)年7月
 ⑦…関東大震災鉄道復旧工事写真帳

- ①④⑤当館蔵 ②横浜開港資料館蔵
 ③⑥⑦河津啓太郎氏蔵 横浜開港資料館保管



7

関連企画

◎展示解説

2022(令和4)年1月29日(土)、1月30日(日)
 2月13日(日)、3月12日(土)、3月13日(日)
 会場: 横浜都市発展記念館 企画展示室
 各回13:30~ 30分程度/先着15名

◎パネル展示「鉄道橋の関東大震災」

2022(令和4)年1月15日(土)~3月27日(日)
 会場: 横浜都市発展記念館1階ギャラリー

企画展図録

当館ミュージアムショップでも
 オンラインショップでもご購入
 いただけます。
 オンラインショップこちらから▶



※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会期・開館時間等を変更する場合があります。最新の情報はホームページまたはお電話にてご確認ください。

横浜都市発展記念館

Museum of Yokohama Urban History

〒231-0021 横浜市中区日本大通12
 TEL.045-663-2424 / FAX.045-663-2453
<http://www.tohatsu.city.yokohama.jp/>

アクセス

- 東急東横線・みなとみらい線「日本大通り」駅③番出口徒歩0分
- JR根岸線「関内」駅南口・市営地下鉄「関内」駅下車徒歩10分
- 横浜市営・神奈中バス「日本大通り駅南口」下車徒歩1分

